

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

平成 27 年度病害虫発生予察注意報第 2 号を発表したので送付します。

平成 27 年度病害虫発生予察注意報第 2 号

- 1 作物名 小ギク
- 2 病害虫名 アザミウマ類
- 3 発生地域 沖縄本島、伊江島、久米島

4 注意報発令の根拠

- (1) 本島中南部における 10 月上、中旬の調査の結果、茎当たり成虫数は上旬 0.34 頭、中旬 0.26 頭（前年 0.1 頭、平年 0.12 頭）と上、中旬とも平年より多かった（図 1）。
- (2) 被害葉率は上旬 23.1%、中旬 8.0%（前年 1.7%、平年 3.4%）と上、中旬とも平年より高かった。（図 2）。
- (3) 病害虫防除員からの報告によると、本島北部、伊江島、久米島でも発生が多い。
- (4) 今回発生が確認されたアザミウマは主にクロゲハナアザミウマであった。

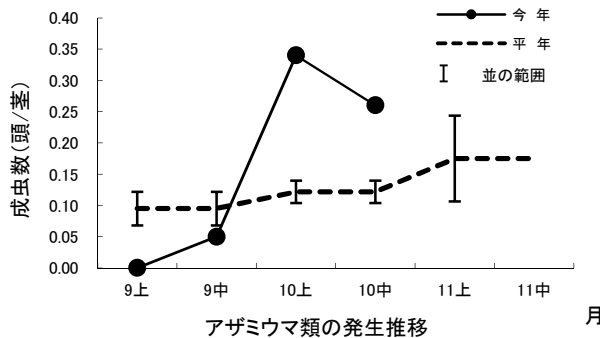


図 1. アザミウマ類の茎当たり成虫数の発生推移

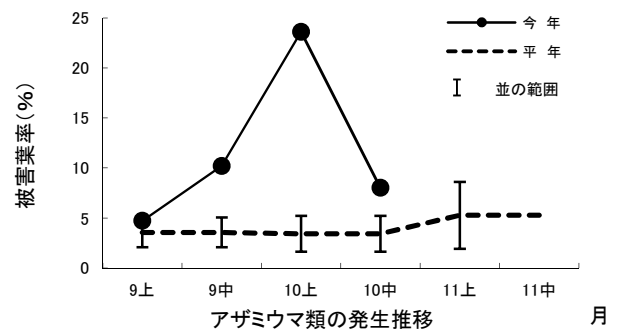


図 2. アザミウマ類による被害葉率の発生推移

5 発生生態および被害

- (1) 葉を加害するアザミウマ類は、本県では主としてクロゲハナアザミウマで、その他ミナミキイロアザミウマ等である（図 3、図 6）。
- (2) これらアザミウマ類の成虫は葉に産卵し幼虫とともに葉に生息、幼虫は土壌表面に落下し蛹化する。
- (3) クロゲハナアザミウマの被害は葉の両面に現れるが、主に葉裏に被害が多く、茶色のかすり状になる。またハダニ類の被害と似ている（図 4、図 5）。
- (4) ミナミキイロアザミウマは主に新葉を加害するため、展開葉は奇形葉となったり葉表にケロイド症状が現れる（図 7）。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 苗の段階から葉にアザミウマがついていることが多いので、苗床での防除を徹底する。
- (2) 定植時に粒剤を施用する。
- (3) 採穂後の親株ほ場はアザミウマの発生源となるため、薬剤散布後、すみやかに片付ける。
- (4) 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- (5) 同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- (6) 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。



図3. クロゲハナアザミウマ成虫



図4. クロゲハナアザミウマによる葉表の被害



図5. クロゲハナアザミウマによる葉裏の被害

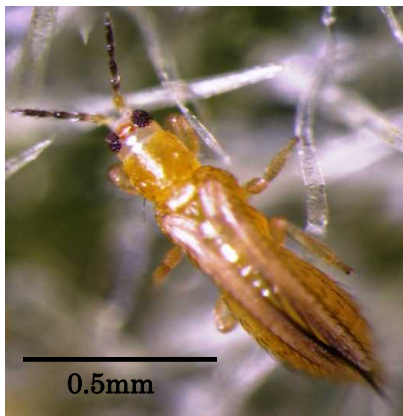


図6. ミナミキイロアザミウマ成虫



図7. ミナミキイロアザミウマによる葉の被害

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : 098-886-3880

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>